

撮影=大野金繁

一世紀を超える老舗の甘き追憶



「梅寿軒」の梅最中、わかめ餅、いしごろも

上)いつも笑顔で応対してくれるスタッフ。
下)店構えにも老舗の風格が感じられる。



梅寿軒 (ばいじゅけん)

下関市中之町8-24
☎083-222-2372
8時~18時
日曜休み

(梅最中大納言6個入り861円、わかめ餅6個入り735円、いしごろも8個入り525円)

創業明治36年(1903)以前という老舗の菓子店。和菓子の真髓ともいえる小豆を精選してつくった梅最中は、何ともいえない上品な甘さが口のにこる。和布刈の神事にちなむわかめ餅は、ふんわりした餅の中にワカメが香って、まさに港町の風味だ。店主の倉本雅通さんは中学生の頃まで、ご近所住まいだった下関本陣主・伊藤九三の子孫の方に可愛がられて、頭をバリカンで坊主刈りにしてもらっていたという。その方は、賞状などに文字を入れる書家だった。若い店主の思い出が、維新の記憶をにわかには魅らせてくれる。それも老舗の味かもしれない。

洋菓子と喫茶「三好屋」の龍馬コーヒー

カップの中の龍馬と口づけ



(龍馬コーヒー450円、ケーキ270円～)

「シンプルで飽きのこない美味しさ」を掲げる街の老舗洋菓子店で発見した「龍馬コーヒー」。陶製の器に注がれたカップチーノには、コアやシナモンパウダーで龍馬の顔が描かれている。龍馬の顔をくずさないよう慎重に口をつけると、ほんのり甘い。「バニラ、キャラメル、シナモンの中から、お好きな味が選べます。型を乗せて上から粉をふりかけるだけだから、作り方は簡単ですよ」と微笑むのは帽子がお似合いの3代目三好博康さん。舶来モノに敏感な龍馬のこと、きっとコーヒーだって飲んだに違いないと妄想が広がる一杯だ。

上) 物腰ソフトな白衣のオーナー、三好博康さん。下) 唐戸銀天街でもひとさわ都会風。



三好屋 (みよしや)

下関市唐戸町3-19

☎083-222-3087

9時30分～19時

年中無休(元旦のみ休み)